新潟県立大学北東アジア研究所公開セミナー
「変化する世界秩序と地域経済：不確実性の中の北東アジア」

中国の「新質生産力」の発展と挑戦

2025年5月20日

新潟県立大学北東アジア研究所
李　春霞

新質生産力（新たな質の生産力）とは

- 2023年9月、習近平総書記は黒竜江省を視察した時に、初めて「新質生産力」を言及した言葉である。
- 新質生産力とは、イノベーションが主導的役割を果たし、従来型の経済成長方式から脱却し、ハイテク、高効率、高い質という特徴を持ち、新たな発展理念に合致した先進的な生産力である。（出所：人民網日本語版　2024年03月08日）
- 中国の国営通信社新華社は「New quality productive forces」と訳している。

新質生産力（新たな質の生産力）とは（続き）

- 2024年3月の第14期全国人民代表大会の政府活動報告では、10項目の重点活動が掲げられたが、その第1番目は「現代的な産業システムの構築を大いに推進し、新質生産力の発展を加速させる」ことである。以下のような主要措置が打ち出された。
- 産業チェーン・サプライチェーンのアップグレード。
- 積極的に新興産業と未来産業を育成する。
- デジタルエコノミーのイノベーション・発展を推進する。

未来産業

- 2024年1月29日、中国の工業情報化部、科学技術部など7部門は「未来産業の革新的発展の推進に関する実施意見」を発表した。前記意見では、2025年までと2027年までの未来産業の発展目標を掲げた。イノベーションけん引型成長を原則とした。
- 目標：2025年までに一部の分野を国際的な先進水準にする。2027年までには未来産業の総合的な実力を顕著に高め、一部の分野では世界をリードすることを目指している。
- 重点6分野：製造、情報、材料、エネルギー、空間、ヘルスケアである。

- （出所：https://www.miit.gov.cn/zwgk/zcwj/wjfb/yj/art/2024/art_ad15b0f08a714fd8888c0e31468b8c54.html）

未来産業

表1　「未来産業の革新的発展の推進に関する実施意見」における未来産業の重点6分野

	分野	概要
1	製造	スマート製造、バイオ製造、レーザー製造、スマートセンシング、工業分野の「メタバース」（インターネット上の仮想空間）などの発展を推進する。
2	情報	次世代移動通信技術、衛星インターネット、量子情報などの技術の産業化応用と量子コンピューティング技術のブレークスルー、大規模言語モデル（LLM）などの発展を推進する。
3	材料	非鉄金属や化学工業などの先端基礎材料のアップグレード、高性能炭素繊維、先端半導体などコア戦略材料、超電導材料など新材料の発展を推進する。
4	エネルギー	原子力エネルギー、核融合、水素エネルギー、バイオマスなど重点分野に焦点を当て、収集・貯蔵・輸送・応用が一体となった新たなエネルギー設備システムを構築、新型結晶シリコン太陽電池や薄膜太陽電池など高効率な太陽電池、新型エネルギー貯蔵などの発展を推進する。
5	空間	宇宙探査設備、深海作業設備、地球深部の資源探査・採掘設備の研究開発およびイノベーション応用を推進する。
6	ヘルスケア	細胞・DNA技術、合成生物など先端技術の産業化を加速、5G・6G、「メタバース」（インターネット上の仮想空間）、AIなど新興技術を活用した新しい医療サービスの発展とデジタルツイン（注1）やブレイン・マシン・インターフェース（注2、BMI）などの先進技術を利用した先端医療設備およびヘルスケア用品の研究開発を推進する。

（注1）「デジタル上の双子」の意味で、物理的なモノと空間をデジタル上に再現し、シミュレーションや管理などを行う技術。

（注2）脳波などから発信される情報の利用、または脳への刺激などといった方法により、脳と機械をつなぐ技術。

出所：JETRO（2024）「未来産業」発展計画を発表、重点6分野で育成強化（https://www.jetro.go.jp/biznews/2024/02/996c46f38d271cb0.html）

新質生産力は新しいものなのか

- 2004年12月3～5日に北京で開かれた中央経済工作会議は、「自主イノベーション」は構造調整を推進するに当たっての中心的な課題であると明確に提起した。
- 2006年2月9日に、国務院は「国家中長期科学と技術発展計画綱要（2006～2020）」を公布し、2020年までにイノベーション型国家になるという目標が掲げられた。
- 国家発展改革委員会は「高技術（ハイテク）産業発展の第11次5ヵ年計画（2006～2010）」（原文「高技術産業発展“十一五”規画」）を制定し、2007年4月28日に公布した。同「計画」は、電子情報、バイオ、航空・宇宙開発、新素材、新エネルギー、海洋産業をハイテク製造業として、またデジタル情報サービス産業をハイテクサービス産業として、重点的に発展させる産業と指定した。

新質生産力は新しいものなのか（続き）

- 2010年10月10日、国務院は、「戦略的新興産業の育成と発展の加速に関する国務院の決定（国発[2010]32号）」を公布した。同決定は、国際競争において優位に立つために、戦略的新興産業の育成・発展を加速させ、コア技術及び知的財産権を持たなければならないと強調し、7つの産業（省エネ・環境保護、新世代情報技術、バイオ、先端装備製造、新エネルギー、新素材、新エネルギー車）を戦略的新興産業に指定した。
- 2011年3月16日に、政府は「中華人民共和国国民経済と社会発展の第12次5ヵ年計画」（2011～2015年）を公布した。同「計画」において、経済構造の戦略的調整（製造業の核心的競争力の向上や戦略的新興産業の育成を含む）、技術進歩とイノベーションによる成長方式の転換、イノベーション型国家の建設などが基本的な方針とされた。

- ⇒従来の成長方式（要素投入型）から新たな成長方式（イノベーション型、生産性上昇型）への変換は2000年代半ばからすでに打ち出された。その意味では、新質生産力は新しいものではない。
- ただ、時代の変化や技術の発展に伴い、対象産業はアップグレードされた。

新産業分野の工業製品生産量

- 2024年、規模以上鉱工業のうち、新エネルギー自動車（EV、ハイブリッド車、燃料電池車）生産量は1316.8万台、前年比38.7％増。
- 太陽電池生産量は前年比15.7％増。
- サービスロボット生産量は1051.9万セット、前年比15.6％増。
- 3Dプリンター設備製造業は341.8万台で、前年比11.3％増。

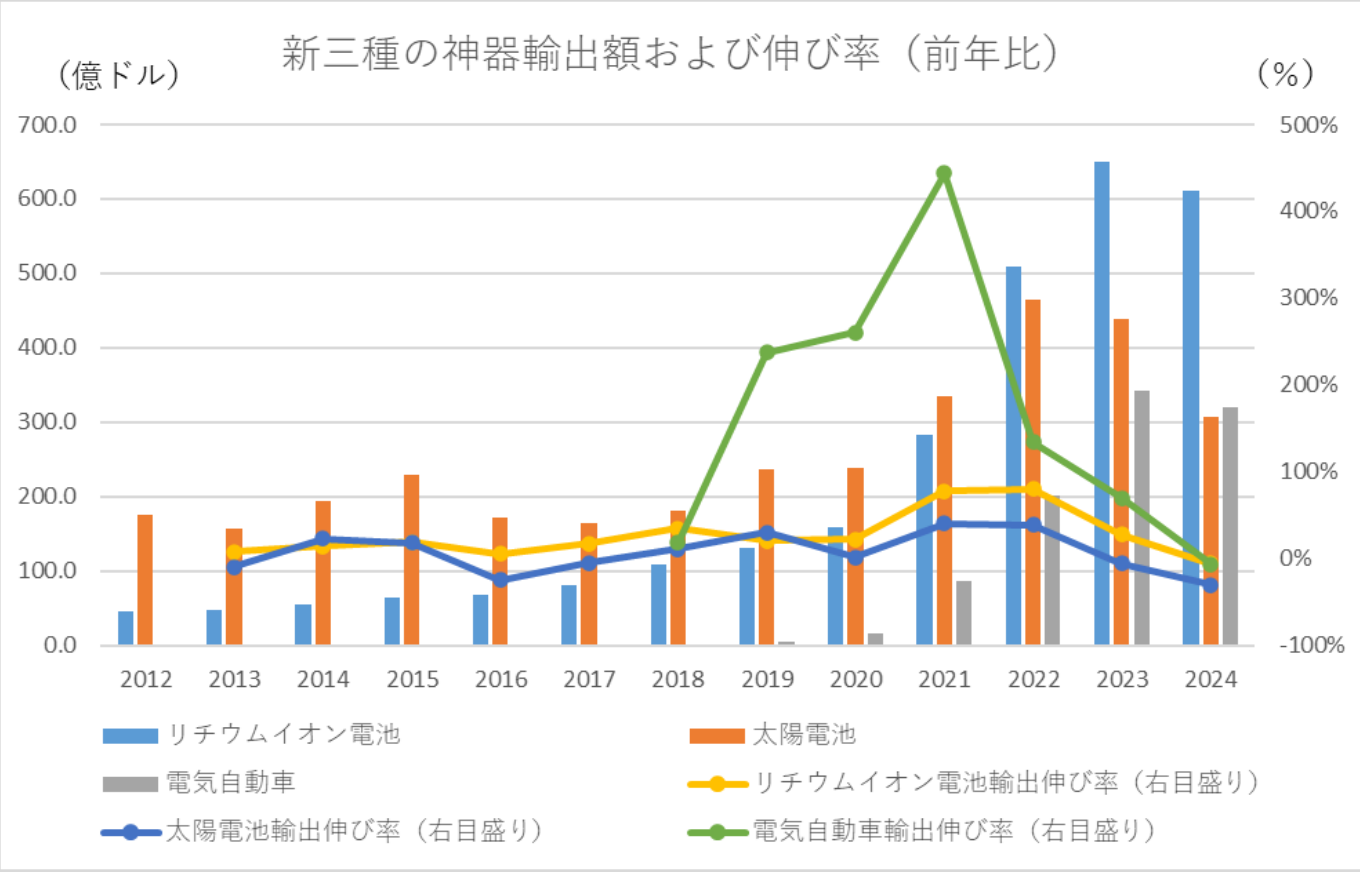
- （出所：2024年国民経済社会発展統計公報より）

新三種の神器の輸出

- 新三種の神器
- かつてはアパレル、家具、家電は中国の主な輸出製品であった。
- 近年は、中国の電気自動車（EV）、太陽電池、リチウムイオン電池の輸出は増加している。中国では新三種の神器と位置付けられている。

新三種の神器輸出額・伸び率

- 2024年は輸出減速

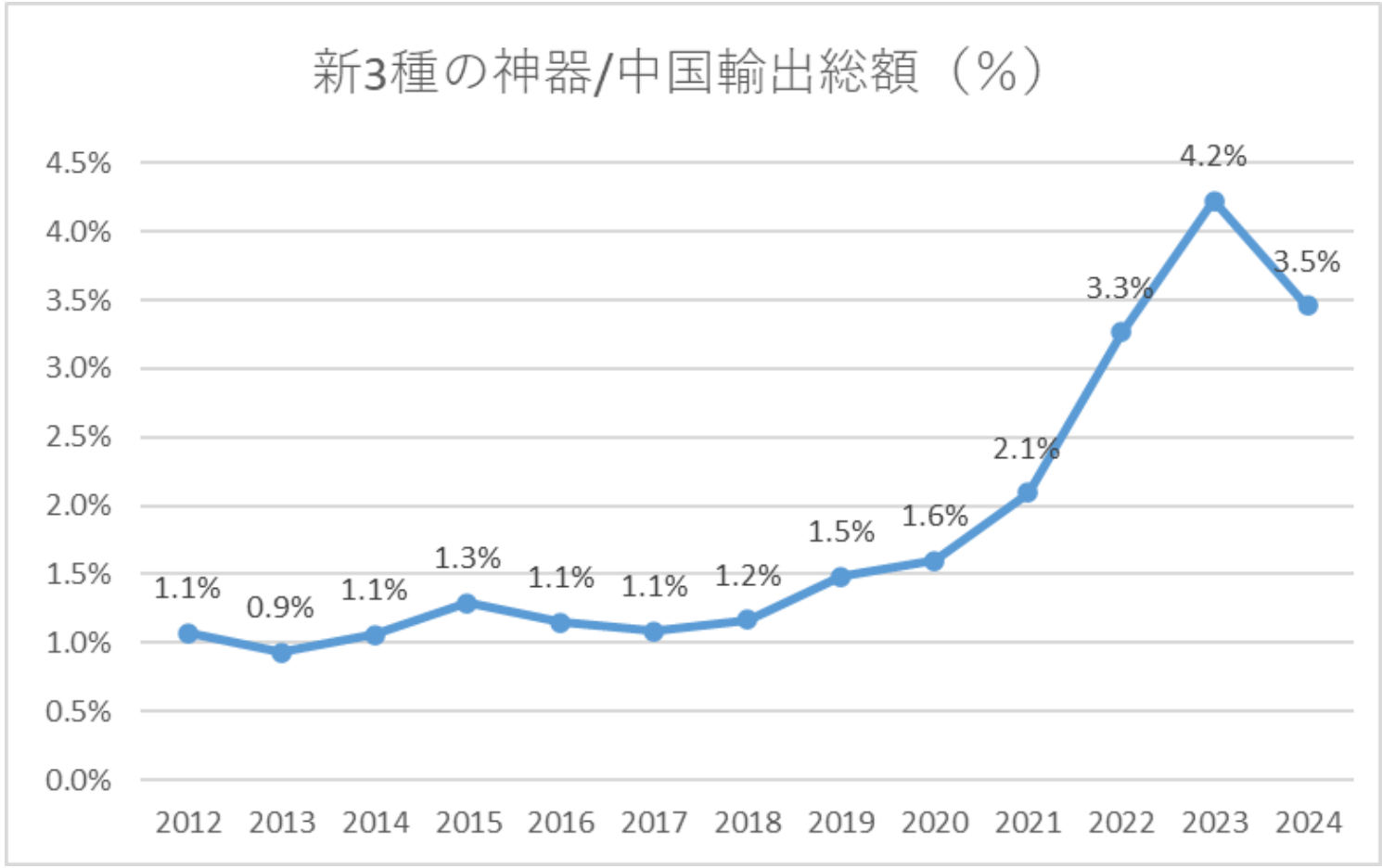


注：リチウムイオン電池（HS850760）、電気自動車（HS870380）、太陽電池（2022年まではHS854140、2022年からHS854142とHS854143に変更）
出所：GTAのデータに基づき作成.

課題

- 生産過剰
- 貿易摩擦、輸出減速
  - 太陽電池は10年以上前にはすでに貿易摩擦が起きた。
  - EVに関しては、EUは2024年10月29日、中国製EVに対する追加関税の導入を決定した。今後5年にわたり、従来の10%に7.8～35.3%を上乗せし、最大45.3%の関税を課す。2025年4月10日、EUは域内に輸入される中国製EVについて、関税の代わりとして最低価格の導入に向けた協議に入ることで、中国側と合意したと発表した。
- その他の懸念：米中対立により、中国留学生（ビザ取得・更新など）は影響を受けているケースがある。中国のイノベーションにはマイナス影響。

新三種の神器の輸出が輸出総額に占める割合



2024年、新三種の神器の輸出は輸出総額に占める割合はわずか3.5%、2023年より低下した。

出所：中国税関統計、GTAのデータに基づき作成.

ご清聴ありがとうございました。